

第29号

平成23年6月

●スペースパークボランティアの会●

S.P.Vつづれん

発行:スペースパークボランティアの会 広報部会 〒963-8002 福島県郡山市駅前2-11-1 郡山市ふれあい科学館内 TEL024(936)0201

3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様に、
心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます



新幹線『はやぶさ』

東日本大震災後再開した、22階の鉄道ジオラマに登場した、新幹線車両E5系「はやぶさ」について紹介します。

東京～新青森間を最速3時間10分で結ぶ、ロングノーズの個性的な姿のはやぶさは、グリーンとホワイトを基調に、スピード感溢れるデザインと、車内外の騒音や揺れを低減するなど、快適性を向上させながら、さらなる高速化を実現した、JR東日本の最新型車両です。

“夢の超特急”というキャッチフレーズで、新幹線が東京～大阪間に開業したのは、東京オリンピックが開催された、昭和39年(1964年)でした。あれから約半世紀、新幹線は西へ北へと伸び、昨年12月4日に東北新幹線は新青森まで延伸開業しました。今年の3月5日には「はやぶさ」が、そして3月12日の九州新幹線の全面開業で「みずほ」「さくら」が登場し、北の青森から鹿児島まで、日本列島は新幹線で結ばれました。

「はやぶさ」は、東日本大震災が発生した3月11日から4月下旬まで、運転を見合させていましたが、ゴールデンウィークから再開され、現在は速度を落として走行しています。いずれは最高速度300キロで、東京～新青森駅間を一日2往復します。残念ながら、はやぶさは郡山駅には停車しません。しかし、その鮮やかなピンクの帯を配した車体は、22階の展望ロビーから見ることができます。時間は、東京発新青森行が10時5分ごろです。

皆さま「はやぶさ」をぜひ、見にお越し下さい。(兼谷 豪)

GW科学グループの活動

今回のゴールデンウィーク活動はすこし科学を離れ、季節限定メニューのこいのぼり作成を行いました。ポールに父のぼり、母のぼり、それに子のぼりにふきながし、矢車までフルバージョンでの作成です。それにしばらく飾ることを前提に、細かい強度から仕様まで実はこだわりの詰まった、自分で作るものとしてはなかなかの一品であつたりもします。

すこし、小さな来客さんには難しかったかもしれません。はさみ使いにパーツ、全体のバランス。ちょっとずつコツが盛りだくさんでした。けれども手で作り上げた感動とそれを家族に見せることは格別。希望ではありますが、それぞれの家庭でより多くの人の安息につながったものと重います。

今期の科学グループは、震災の一連で出張活動は少なくなるかもしれません、まずホームを大切にしながらお互いに学びあい高めあっていくことを忘れずに、市民とのふれあいを楽しんでいきたいと思います。

(熊本 隆之)



スペースパークボランティア募集!

※無償参加可能な方。他応募条件有り。詳しくはお問い合わせください。
郡山市ふれあい科学館スペースパークでは生涯学習ボランティアを募集しています。現在、当館では幅広い年代層のボランティアの方々が活躍しています。私たちと一緒に楽しんでみませんか。興味がある方は、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先:郡山市ふれあい科学館 管理課

TEL024-936-0201

「レベル7」のリスクを隣人とする未知の人生

3.11の東日本大震災発生後間もなく、突然近隣に「レベルセブン」なる物体が、とても大きく大きなリスクを抱えて住み着いた。

先住民としては、痛みを伴うことになるのか、耐え難い苦しみが待っているのか、身内まで寄り付かず孤立するのか…安全な地(?)に住む家族のラブコールにも感謝しつつ熟慮の結果、この歓迎せざる隣人を無視せず注意深く見守りながら、残りの人生を送ろうと決意した。

過去の原発事故で「レベル7」の最悪といわれる切尔ノブイリ事故から25年経過しても、今だ住民は帰還できず老朽化などの新たな問題が浮上したり、98年に原子炉停止した東海原発がすべて解体終了するが、早く2020年と言われるように廃炉に向けた道のりは、長期間かつ膨大なコストが掛かるのは明白だ。

敢えて人災と言わせてもらう今回の事故は、収束に向け半年程度先までの工程表しか示されていないが、1ヶ月後には不測の事

態を発生させている。

(5月17日現在)

核兵器を作り出すための先端技術が平和目的に利用されて約60年、この事故は周辺住民まで被爆者にしてしまった原発震災である。

「世界で最も安全で効率的な原発」と海外にも積極的に売り込んでいた原発先進国としての、日本の対応を国際社会は固唾を呑んで見守っている。混沌とした状況ではあるが、愛する郡山の地で国民の英知を集めての、原発事故の収束と復興事業をしっかりと見守って、将来が夢と希望に満ちた構想力豊かな復興の地になることを見届けたいと思う。

(久野 功)



使う人の身になって

その日誕生した新生児から高齢者の域に至る人まで等しく感じられた、東日本大震災は誰もが予想していなかった、最初で最後であろうと思われるほどの大地震であった。

マグニチュード9は、日本では初めてのことであり、世界でも第三位にランクされる程の大震災であつた。それに伴い、予想を遥かに超えた大津波に襲われ、一瞬にして全てが波に持ち去られた。家だけが残った状態の人もいた。この様子はほとんど毎日テレビで放送されており、その中で、着のみ着のままの格好で避難所生活をする被災者たちの姿を見て、日本は勿論、世界中の国々から救援物資が日ごとに多く寄せられた。多くの人たちの善意によって届けられたそれらの物資を、ボランティアの人たちが箱から取り出し、それぞれの避難所へ配達するため、仕分

けをする姿もテレビには映し出されていた。

その中で気づいたことがある。それらの救援物資の中には、まったく使用できないもの、例えば、賞味期限の切れた食品、泥がついたままの履物、汚れたままの肌着や衣類など、どれを見ても一般家庭なら焼却処分するような物がたくさん含まれていたのだ。

「家に置くと邪魔だから、この際、救援物資として出してやれ。」と、安い考えで出品されたものも多いのではないか、とボランティアの方々も口にしていた。

私はこのニュースを見て驚き、なんと自己中心的な考え方の人たちが多いのだと思った。これがもし、立場が逆だった場合は、彼らはどういう感じなのだろうか。

私は、皆が明るく気持ちよく暮らすために、日常的に常識のある行動を心がけ、いつも相手のことを考えながら、さわやかな気持ちで過ごしたいと思う。

(国分 辰夫)

星空を見よう☆

あの日から、非日常的な生活が続き、すっかり変わってしまった環境…。後片付けなどに追われ、精神的にも暗くなり下ばかり見ていました。駅前観望会も開催ができます…。

最近ふと見上げれば、以前と同じように星が輝いていることに気付きました。星座は春からそろそろ夏へと移って、明け方の空には秋の星座が見られます。一晩で3つの季節を過ごせます。この地震で生きている地球を感じさせられました。

美しい自然と、怖いほどエネルギー。2つの面があつて地球なのです。

宇宙の中の地球を考えながら、遙かなる星空に思いを馳せてゆきたいと思います。梅雨の晴れ間には星を見て、癒されましょう。 (星 ゆかり)



『免震構造とは?』

免震構造の免震装置が軽減するのは「揺れの大きさ」ではなく「揺れの加速度」です。中層以上の建物で用いられる事が多い免震装置は心材の鉛と周囲の積層ゴムで加速度を吸収しますが振幅は上階に行くほど大きく揺れているように感じる事があります。ひとことで言えば建物がしなるわけです。ただし揺れるスピードが遅く一定以上は揺れないために他の建物が破壊されるような大地震時でも小規模の被害で済みますし、家具等の転倒が著しく少なくて済みます。が、注意したいのが所謂「地震酔い」です。一方、耐震構造の場合は頑健な構造から地震により建物が倒壊することはありませんが地震の揺れ自体は防ぐことができないで家具の倒壊による怪我や死亡のリスクがありますが、工事費は免震構造と比較して安く済みます。(内田 章)



「大地震」と「原発」

桜の花も、地震が夢であったかのように咲き過ぎ、北海道まで進んでいるようです。

3月11日は、地震、津波、そして原子力発電所の事故と大変でした。津波の凄まじさはテレビの映像で見ていました。

あれから2ヶ月が過ぎて、地震や津波の被害には復興の兆しも見えますが、津波で原子炉を冷やす装置が止まり、爆発を起こした福島原発は、今でも放射性物質を放出しています。また、3月15、16日の原子炉建屋の爆発で、放射性物質が海風に乗り、飯野、福島方面に流れ、雨で地面に残留したセシウムが放射線を出し続けています。さらに、それに大気中の塵に混じる放射性物質が加わり、飯野、福島、そして郡山で、高レベルの放射線が検出されているのです。

そんな中、原発から半径20～30キロの皆さんは放射線を避けるために避難しており、さらに計画避難地域の皆さんには、これから避難をします。

私たちも、帽子や手袋、マスクをして、出来るだけ外気に当たらないようにしたり、外から帰ったら手洗い、うがいをするなどして、体内に放射性物質を取り込まないようにしなければなりません。



「あの日」

3月11日のあの日、いつものように朝が来て、慌ただしく職場の保育園に出掛けました。

「先生!おはよう～!」「今日は何して遊ぼうか?」と子供たちの元気な声。それからいつも通り、子供たちは午前中の活動を終えると、昼食を済ませ、お昼寝をしていました。

そんな中、突然の揺れ。地震でした。それもいつもの揺れとは違い、立っていられなくなるほどでした。大きな地震だったため、飛び起き、泣きながらしがみついてくる子供たちを、必死に避難誘導しました。まもなくすると、保護者の方が迎えに来ました。保護者の方が我が子の名前を呼び、子供たちを抱きかかえました。すると子供たちは一瞬にして安心した笑顔を見せ、またある子は今まで堪えていた気持ちが緩み、涙顔で母親の胸に飛び込んでいました。

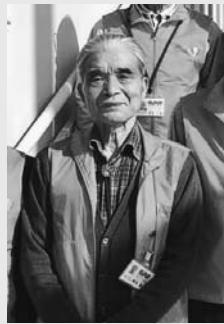
その姿を目にしてとき、私は、改めて親子の絆の深さを知り、同時に保育士としての責任の重さを感じずにはいられませんでした。それは「命を預かる」という最も大切なことでした。今でも、余震が来

原子力発電は、米国、フランス、ドイツ、中国などの多くの国で、利用されています。日本にも、54基もの原発があります。なぜならば、原子力発電に必要なウラン1グラムで、石油2000リットル分、石炭なら3トン分の熱源が得られるためです。

日本の原子力の歴史は、アイゼンハワーの原子力平和利用の呼びかけにより、昭和29年に原子力基本法が制定されたところから始まりました。そして原子力は、その国の豊かさの象徴となりました。「原子力なくして日本の成長はなかった」と、当時の責任者は断言しています。

今年で、福島原発40周年(吉田内閣の基本法発足から11代目、鈴木善幸内閣、木村知事)です。この事故により、「福島県は帰れ、来るな、買うな」と悪者扱いをされるのは許せません。福島県にとって原発とは一体何であったのでしょうか。風評被害は当分続くものと覚悟していますが、一日も早い、事故の終息を望んでやみません。

(新田 彌)



るたび子供たちは怖がり不安な気持ちになりますが、何度も「大丈夫。」と言ってしっかりと抱きしめてあげるようにしています。感受性豊かな子供たちは、今回の出来事でいろいろな思いをしているのだろうと思います。今、私にできることは、暖かい気持ちで接し、受け止め、彼らの心の回復を見守ってあげることだと思います。

あの日から2ヶ月が過ぎた今、今度は原発の状況が子供たちの環境を脅かしています。戸外で思いきり走り回り体を動かしたり、公園に行き散歩を楽しんだりなど、今まで当たり前だったことが、放射線低減対策として、安全安心のため屋内の活動に制限されており、本来の「子供は元気にのびのび戸外で遊ぶ」という姿からは、ほど遠い日常です。

しかし人の力は微力ですが、決して無力ではありません。こんなときだからこそ、私たちが前を向き、今やれること、無理なく楽しめることをどんどん見つけていき、日常の幸せにありがたみを感じていくことで、子供たちが希望を見つけ、夢を追っていくよう応援していきたいと思っています。

未来を担う子供たちのために。

「明日は、自分たちでつくることが出来るのだ。」と伝えていくために。

(原 弘子)

内田博士の 魂の叫び!! ㉓『疑心暗鬼と笑顔と繋がりと』

イベント会場の店先には、子供心をくすぐるもので溢れている。1,000円の小遣いを貰った少年(私)はその魅惑的な雰囲気に心躍らせて店定め品定めをしていた。戦車のラジコンの入った箱が目に止まる。そして7枚のくじを引けば、この景品全部が手に入るものと思い込んでしまっていた。いま思えば、あの無数の景品の中の7個が当ることでしかないことは判りきったことだが、何せ当時、そんな読みができるわけも無い。ポケットから1,000円札を取り出し、「おじちゃん! やる! 7回!」。「はいよ! おつり300円! 当るといいな~」。何をバカなことをこのおじちゃんは言っているんだ。くじは全部この俺が買ったんだ。と、くじの入ったパケツに手を入れ、1枚1枚くじを開けた。「7」…「7」…全部7だった。「おーっ! すげーな! 全部7か! オ

ールセブン! あいよ!」とビニール製の指人形7個。「7等の賞品! はい、ありがとうございます!」「おじちゃん! ラジコン当るって言ったのに!」。すると、景品が並ぶ台の下に手を入れ、「あったるわけねーだろー!」の怒声と同時に陳列台の下に隠してあった箱一杯のくじを驚きに空のザルの中に放り込む。その時、自分の置かれた状況がわかった。震災以降、様々な情報が錯綜し、疑心暗鬼の襲われる日を過ごす故に案外自身の経験に基づいた冷静な自己判断が重要なのかもしれない。そして何より笑顔・繋がりの大切さを痛感できたことも周知の事実。4月29日の再オープンを楽しみに科学館に足を運んでくださるお客様と、笑顔で繋がりたいと痛切に思う。


イベント情報


Event Information

サイエンスフェスティバル

- 7/16(土)~18(祝) 10:00~17:00
- 8/12(金)~16(火)

スペースパークの科学のお祭り「サイエンスフェスティバル」にS.P.Vも登場! 夏休みは私たちと一緒に科学をおもいっきり楽しんじゃいましょう! 作って楽しい科学工作と、摩訶不思議(?)な科学実験で、みなさんのご来館をお待ちしています!!

天ボラの

知識の泉²⁸

- ペルセウス流星群

夏の定番天文現象と言えば、ペルセウス座流星群です。これはスイフトタットル彗星というほき星が地球の公転軌道上に撒き散らした直径1mmから数cm程度のチリの粒が地球の大気に飛び込んできて、激しく摩擦を起こし、高温になって光って見える現象です。出現のピークは、8月12日の夜から翌日13日の未明。お盆休みのころなので、街

から離れた暗い空で観察してみてはどうでしょう。

今年は月齢13の月明かりと重なってしまい明かるい星空となってしまいますですがそれでも、運や条件さえよければ1時間に30個以上の流れ星を見ることができます。夜半過ぎの北東の空、カシオペア座を目印にその下10度(握りこぶし1つ)あたりが出現ポイントです。(田辺信作)

今号のきら星☆さん

科学グループ 伊藤 優さん

2010年三月まで当館でスペースクルーをしておりました。その時から科学グループの活動をみていて「楽しそうだなあ」と感じておりました。退職後すぐに応募し、それから1年、多くの活動をしてきました。出張活動に研修会、外へのツアーなど勉強になることがたくさんありました。

カウンターでの活動時には、子供達が頑

張って完成させた工作をキラキラした笑顔で持ち帰っていく様子を見ていると、嬉しくなります(*^_^*)これからも活動を通して、知らないことをたくさん吸収し、深めていき、楽しみたいと思います。

目指せ!300時間賞★で、2年目も皆さんに楽しんでもらえるよう、頑張って活動していきたいと思います。



S.P.V 活動情報(～9月)

ほかに公民館など市内出張活動を予定

案内サービス “昔懐かし”紙芝居 (約15分)

- ◇随時実演 ☆展望ロビー(北)

鉄道ジオラマ ジオラマショー案内 (約20分)

- ◇11:00～、15:00～、17:00～ ☆展望ロビー(東)

科学 かんたん科学工作ほか

- ◇土日祝10:00～15:30 ☆21階展示ゾーン入館者対象

天文

天体観望会

- | | |
|---------------------|------------|
| ◇7/9(土) 19:30～20:30 | ☆郡山駅西口駅前広場 |
| ◇8/6(土) 19:00～20:00 | ☆郡山駅西口駅前広場 |
| ◇9/3(土) 18:30～19:30 | ☆郡山駅西口駅前広場 |



※科学館休館日を除く。なお都合により活動が休止となることがありますのでご了承下さい。

★『S.P.Vつうしん』発行予定 第30号 9月下旬★

★S.P.Vの楽しくてタイムリーなボランティア活動情報をHPでお知らせしています

HPアドレス <http://www.space-park.jp>

募集や活動等についてのお問合せは……郡山市ふれあい科学館 TEL024(936)0201まで

編集
あどがき

- (橋)ユサブラレマシタ。千年に一度の経験を何とか良い方向に活かしたいです。
- (国)震災後長期に亘り休館し、再館が待ちどおしかった。今回限りで、後は絶対に休館したくない。
- (熊)本業が日に日に忙しくなっています。ボランティアもどんどん充実して、このまま“3.11”が昔話となりますように!
- (星)見上げる星空はひとつ。みんなの思いもひとつ…。明るい未来☆ 顔晴(がんばる)みんな笑顔に!!



この印刷物は、環境にやさしい植物油インキとFSC認証紙を使用しています。
紙へリサイクル可。